

第17回宇宙輸送システム部会 議事要旨

1. 日時：平成26年9月18日（木） 16：00－18：05

2. 場所：内閣府宇宙戦略室 大会議室

3. 出席者

（1）委員

山川部会長、白坂部会長代理、緒川委員、仁藤委員、松尾委員、御正委員、薬師寺委員、渡邊委員

（2）事務局

中村宇宙戦略室審議官、森宇宙戦略室参事官、頓宮宇宙戦略室参事官

4. 議事要旨

（1）新型基幹ロケット開発の進捗状況について

文部科学省から資料1、JAXA及び三菱重工業株式会社から資料2に基づき新型基幹ロケット開発に関するミッション要求等の改訂及び開発の進捗状況について説明があった。

説明の後、以下のような意見があった。

○新型基幹ロケットに係るキー技術で、まだ担当事業者が選定されていない技術については、上位システムを踏まえて速やかに選定することだが、時間は有限な資源であることから、なるべく早急に選定すべきである。

○新型基幹ロケットは、我が国の得意な技術を結集したロケットとして、国民の支持を得られるように進めていくべきである。

○打ち上げ実績をミッション要求として設定すると、一度失敗があった場合に、そのミッション要求達成のために数多く打上げ成功させることが必要になってしまうのではないか。技術的に求める信頼性について検討するべきである。

審議の結果、新型基幹ロケットのミッション要求等の改訂は概ね妥当であり、技術的に求める信頼性については今後も検討を継続することとして、着実に開発を進めていくこととなった。

（2）宇宙政策委員会及び基本政策部会の議事概要等について

事務局から資料3、4、5、6及び参考資料2に基づき、新たな宇宙基本計画の策定に向けて宇宙輸送システム部会で議論を行っていく事項及びそれに至る経緯について説明があった。

説明の後、以下のような意見があった。

○サブオービタル飛行、それに必要な宇宙港を新たな宇宙基本計画に明記すべきである。

○サブオービタル飛行、宇宙港については、将来輸送系の中の項目として議論を

行った上で、新たな宇宙基本計画に盛り込むべきかを検討をすべきである。新たな宇宙基本計画に、全ての項目についての議論を盛り込むことは出来ないため、政府としての優先度を踏まえて選択と集中を行うべきである。

(3) その他

文部科学省から参考資料 3 に基づき、文部科学省の平成 27 年度概算要求の主な宇宙輸送系事業について説明があった。

以 上